

学会参加報告

第60回日本小児保健協会学術集会に参加して

恩納村役場

保健師 伊 波 智恵子

「明るく・やさしく・たくましく～夢に向かって進もう～」をメインテーマに第60回日本小児保健協会学術集会が東京の国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催されました。小児保健に携わる医療現場・学校・保育所・行政等の専門職による、様々な教育講演や一般口演・演題発表・シンポジウム等があり、幅広く興味深い内容でした。その中から学んだ内容をいくつか報告致します。

まず、保健師のための乳幼児健診技能講習会の「乳幼児健診と発達障害との関連を含めて」の講演で、言葉の遅れた自閉症の個別療育の限界性について述べられ、個別療育を4歳までに開始した場合と7歳以降では児の発達に差があり、早期療育によって言語を獲得することもあるということ。また、環境からくる発達遅滞は介入できるので、その主な要因となるネグレクトを見逃さないことなど、乳幼児健診でいかに早期発見し、早期支援に繋げていくことが重要であることを学びました。さらに、フォローアップへ繋げるには、指導ではなく指摘にならないよう、母親への声のかけ方に注意し、健診難民にならないよう、保健師のこぼの配慮についても考えさせられました。

次に「乳幼児健診の意義」についての講演では、健診の意義として“病気を発見する・気づく・病気や事故を予防する・健康を増進する・子育ての指導を行う”ことがあげられ、その際私たちの専門的知識技術も勿論必要ですが、保護者の気づきを大事にし、見落としがないよう保健師の気づきの重要性についても学びました。

さらに、「こどもの生活習慣病やメタボリックシンドローム」についての講演では、近年の女性のダ

イエットや痩せ形体型嗜好の影響で、低出生体重児が増加傾向にあることの問題や、低出生体重児のその後の発育への影響、子どもの将来の生活習慣病の確率が高くなる機序についての説明がなされ、発育及び将来の生活習慣病予防の観点からも妊娠期から関わることの意義を学びました。

また、「食育」に関するシンポジウムにおいてはDHAが視力、集中力、作業記憶、高次機能（集中力・記憶力）等に影響し、子どもの成長・発達には欠かせないことを学びました。

それから、一般口演の「ずり這い、四つん這い」の研究では、乳児におけるずり這い動作を通して乳児が運動の学習を行っている過程が述べられ、発達を促す手立てとなる“ずり這い”ができる環境を作る大切さについて学びました。

最後に「子どもの運動」に関するワークショップにおいては、ある保育所の実験で、体育に特定の項目や指導を行った児より、自由遊びをさせた児の方が、運動能力が高かったという結果が延べられ、幼児期は特定のスポーツに限定せず、複数の運動や遊び、スポーツをとり入れた運動をすることが身体機能や認知能力・社会性に影響を与えるということを知り、幼児期における自由遊びの大切さを実感しました。

今回の学会では、多くの学びのほか、沖縄県から参加した小児科や歯科の先生方や保健師、小児保健協会の皆様とご一緒させて頂き、たくさんの貴重なご意見や情報をいただきました。このような学会に参加できる機会を与えていただいた小児保健協会及び関係者の皆様に感謝申し上げます。

学会参加報告

日本小児保健協会学術集会に参加して

沖縄市役所

保健師 宮 城 恵 子

「明るく・やさしく・たくましくー夢に向かって進もうー」をメインテーマに、第60回日本小児保健協会学術集会が東京の国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて開催されました。

3日間に亘り様々なシンポジウム・講演会・ランチョンセミナー等が企画され、全国における医療・地域保健・福祉・学校教育など、小児を取り巻く様々な分野の活動・研究発表を拝聴することが出来ました。

母子保健業務に携わって半年間と、経験が少ない中での参加ではありましたが、様々な学びを得る貴重な経験をさせていただきました。その中から、特に印象に残った内容を報告したいと思います。

初日、「保健師のための乳幼児健診技能講習会」を受け、核家族化による育児経験の不足や周囲のサポート不足からの育児困難が増えている現状で、乳幼児健診は、親や家族の「子育て力」を育むという重要な意味を担う事業であることを改めて認識しました。

私自身も乳幼児健診で保健指導をする際、保護者からは子供とのコミュニケーションの取り方や、しつけ、生活面での悩み相談を受けることが多く、健康の保持・増進、疾病の予防・早期発見は勿論、乳幼児の生活全般を支援する視点が、乳幼児健診には欠かせないことを感じます。

一方、限られた時間の中で熟さなければならない保健指導では、どれだけその親子を知ることが出来ているか、繋がりが作れているか、健診に来てよかつ

たと感じてもらえているか、悩むことも多いです。僅かな時間であっても、一人一人の悩みに寄り添い、家族の事情を踏まえた細やかで具体的な保健指導を届けられるよう心掛け、一人でも多くの子育てを応援していけたらと思います。

2日目・3日目と、発達支援をテーマにした演題も多く、興味を持って拝聴させていただきました。発達障害が疑われる乳幼児の観察ポイントや、年齢別の具体的症状といった日頃の業務に直結する知識を深めることができ、早期療育の重要性を事例で学べたことが大きな収穫となりました。また、保育・幼稚園や学校、NPO法人の取り組みを聞いたことで、現在関わっているお子さんたちの少し先の発達支援についてもイメージでき、将来を見据えた視点で途切れない支援を保障することの大切さを痛感しました。

全国での様々な発達支援の取り組みを学べた一方で、保護者支援の難しさや、療育に対する地域支援の弱さなど、課題が多いことも感じます。地域支援を担う立場として、これからも様々な機会をとおして、学び考えていきたいと思っています。

今回の研修に参加し、普段はなかなか交流する機会のもてない小児科医の先生方に色々な話を聞くことができ、勉強になりました。今後の保健師活動に生かせるよう努めていきたいと思っています。このような研修への機会を与えてくださった沖縄県小児保健協会の皆様に深く感謝致します。ありがとうございました。